

ひな川

いつの頃かは わからないが

大昔 ひな川（日野山）は

豊地区内を流れていたと言う

ひな川は ひな山（日野山）から

低いところ 低いところへと流れ流れて、

愛宕山にぶち当たり

岡山にぶつかって 西 東

気ままに 気ままに 流れたと言う

西の方（和田）へ流れた川は本流で

東の方（氏家）へ流れた川は支流だったと言う

大きな川も 小さな川も

どの川も どの川も みんな

ひな川だったと言う

大昔 都の人は

遠く離れた この山越えの地を

「み雪降る越」とか「ひなさかる越」の

鄙の地と呼んだと言う

越しの人は

武生 鯖江から眺める日野山が

お雛様が座っている姿に見えることから

雛山と呼んだと言う

江戸時代 松尾芭蕉は

明日の月 雨占はむ比那が嶽（日野山）

と詠んでいる

鄙の地を流れる 鄙川が

雛山から流れる 雛川が

比那が嶽から流れる 比那川が

今日の日野山が まだ無かった頃の話だと言う

えど 江戸時代の初めに 雑川組ができたと言う
雑川組は 雑川の扇状地や三角州、中州などの
洪績地に人が住みついて出来た寺
二十六か寺の集まりであると言う

雑川組の在る所に 雑河在りと言うことで

今庄町を流れた川も 雑川

河野村を流れた川も 雑川

武生市全域を流れた川も流れた川も 雑川

鯖江市豊地区 吉川地区の西側を流れた川も

みんな みんな ひな川だったと言う

【参考資料】

雑川組

我が校の郷土教育（鯖江女子師範学校）

ひな川がどんな川だったのかは豊むかしむかし第2集「昔の川はあはれ川」に記載されています。